

令和 3 年 5 月 22 日現在

機関番号：32678

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K04105

研究課題名(和文) 地域コミュニティに対するクラウドファンディングの複合的影響の研究

研究課題名(英文) Multiple influences of region-specific type of crowdfunding in local communities

研究代表者

中村 雅子 (Nakamura, Masako)

東京都市大学・メディア情報学部・教授

研究者番号：00217895

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域系クラウドファンディングには、単純に提案に対して資金を集めるだけに留まらず、地域の対人ネットワークを形成したり強化したりする機能があることが確認された。クラウドファンディングに関するオンライン調査、サイトのコンテンツ分析、および全国の12の地域系クラウドファンディングサイト運営者、提案者、その他関係者に対するインタビュー調査を通じてデータが収集された。情報システムの設定の違いが、サイト運営者や提案者の戦略を大きく左右していることも指摘された。本研究を通じて情報技術と人間活動の相互的構成についても実証的に示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、従来、研究が少なかった地域系クラウドファンディングの実態について、「地域情報化」という情報社会学の半世紀に渡る研究の文脈を踏まえてデータ収集・分析を行い、地域にとっての重要性を示した。またインターネットを基盤とする情報技術としてのクラウドファンディングが時には提供者の思惑を超えて人々に利用され、一方でその「使いこなし」を受けて仕組み自体が変化・多様化している実態を示すことで、社会と技術の相互的構成のプロセスを示す上でも、今回の研究が貢献できたと思う。

研究成果の概要(英文)：In this study, the author identified that region-specific type of crowdfunding did not only gain financial support to proponents through projects but also generated new social networks and reinforced existing ones in local communities. Data were collected using an online survey, content analysis of websites, and interviews with managers in twelve sites, proponents, and other persons concerned. It was also identified that the system and service settings of the crowdfunding system affected strategies of site managers and proponents. This study also showed empirical inter-configuration of information technology and human activities.

研究分野：情報社会学

キーワード：クラウドファンディング 資金調達の民主化 地域活性化 コミュニティ 支援者 提案者 運営者
地域情報化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想は本研究が採択された2016年までの数年間でクラウドファンディング自体への国内の認知度や、地域活性化に関わる活動に関連する利用が増加したことから生まれた。その背景として2014年に総務省の「ふるさと投資」連絡会議が設置されたことも一因とされている。地域への貢献を謳ったクラウドファンディングサイトも100を超えており、1980年代以降、形を変えて注目されてきたICTを活用した地域の活性化(地域情報化)の文脈からも重要な事象と考えられた。

クラウドファンディングは一般に「インターネットを利用して不特定多数の人々から小口の資金を集める」資金調達方法として知られている。従来資金調達が困難だったベンチャー企業やNPO、市民団体、さらには教育研究機関や地方自治体などにも新たな資金調達方法として注目されている。一方でこの事象には、多様な立場の関係者や、情報システムの設計、地域独自の社会経済的状況などの複雑な要素が絡み合っており、それらの一部に焦点を当てた計量的な研究(例えば提案内容や提案者の属性と成功・失敗の関連の検証)は海外を中心に数多く行われているものの、その複雑な状況を全体として捉える研究は見られなかった。また、逆に特定の事例に焦点を当てた分析や紹介は散見されたものの、複数の事例を比較検討する形で調査を行う研究はほとんど見られなかった。

2. 研究の目的

本研究では、クラウドファンディング自体が運用方法や支援者へのリターンの設定などから購入型、寄付型、貸付型、株式型などに多様化していること、また実施対象としているプロジェクトも多様化していることから、支援金額の最低単価が小さく、一般市民が参加しやすい購入型・寄付型で、かつ運営者がクラウドファンディングのミッションとして特定地域の地域活性化を掲げているものを「地域系クラウドファンディング」と呼び、分析対象とすることとした。

本研究では、まだ十分に知られていない地域系クラウドファンディングの現状と課題を明確にすることを第一の目的とした。また第二の目的として、このような変化する事象を捉えるために、科学技術社会学におけるアクターネットワークの観点から人間的・非人間的なアクターが相互に干渉・変化しつつ形成するネットワークとしてクラウドファンディングを捉えることで、それが地域に与える複合的な影響を明らかにすることを試みた。

3. 研究の方法

(1)ウェブサイト調査

地域系クラウドファンディングについての公的資料がなかったことから、著者独自の探索から個別の地域系クラウドファンディングの運用実態を抽出、把握した。また時間的な変化を知るために、一定の時間を置いて繰り返しアクセスし、サイトの時系列的な変化を把握した(運用状況、プロジェクト数、運営・運営方法主体の変更、プロジェクト成立ルールの変更など)。

(2)クラウドファンディング提案者及び支援者への量的オンライン調査

株式会社クロス・マーケティングのパネルを利用してクラウドファンディングの提案または支援を行った経験があるモニターを対象に大規模オンライン調査を実施した(有効回答999名)。

(3)インタビュー調査

特徴的な施策を行っているサイト、安定的に運用されているサイトを事例研究の対象として抽出し、現地に赴いて半構造化インタビューを行った。12の地域系クラウドファンディングについて実際に調査を行い、一部には複数回の取材を行った。また取材したサイトについては、そこで実際にプロジェクトを実施した提案者や、協力先の企業、行政との協働事例についてはその協働先の窓口となっている部署についても、可能な限り周辺取材を行った。さらに国内の多くの地域系クラウドファンディングにプラットフォームを提供している提供元大手企業2社の責任者(当時)についても取材を行った。

4. 研究成果

(1)ウェブサイト調査からの知見

全国のウェブサイトに対する継続的な情報収集によって、地域系クラウドファンディングを取り巻く環境やそれに対するサイト側の対応の変化が激しく、研究期間内だけでも大きな動きが観察された。その動きを以下の(2)(3)の調査結果と照合して分析することで、人工物としての情報システムと、それに関わる人的、社会的なアクターとのダイナミックな相互構成の経過を明らかにすることができた。一見、類似して見えるクラウドファンディング・サイトの中でも、運用システムや運営者のポリシー、提案者や支援者がどのような仕組みとしてクラウドファンディングを捉え、行動しているかなどの他の要因と複合して、サイトごとの多様性が生まれ、結果としてサイトとしての運用内容や実績も大きく異なる結果となっていた。

(2)量的調査からの知見

購入型・寄付型のクラウドファンディングの利用実態を把握することができた。一般に人々がイメージするクラウドファンディング像と異なり、今日では提案者の実施目的や支援者の意識も多様化・分化していることが確認された(図1、表1参照)。その中でも地域系に関係が深い特色を抽出することができた。また不特定多数の未知の人々からの支援という一般的なイメージと異なり、地域系に限らずクラウドファンディングに占める友人・知人・家族などの「内輪の支援」の重要性が確認された。

(3)インタビュー調査からの知見

地域系クラウドファンディングは一般的な大手の総合型のクラウドファンディングや、他のテーマ(アート、スポーツ、学術など)に特化したクラウドファンディングの事業者と異なり、地域貢献を明確に目標に掲げた事業を展開している。その共通の特徴は、対面支援を含めたきめ細かいサポートである。またクラウドファンディングの提案に対してアドバイスするだけでなく、時には提案者の団体運営や将来展望との関係にも踏み込んでアドバイスする例も見られ、そのような場合には地域団体の中間支援組織としての役割も兼ねていると考えられた。しかし事業としての収益は全体に低く、事業継続に困難を抱える運営者が多いことも明らかになった。提案者取材からは、多くの地域で、地域系クラウドファンディングの存在が、それまで地域活動に必ずしも関わってこなかった提案者に広く地域に呼びかけ、関わることを動機づけたり、周囲の人々を巻き込むことで、地域への市民参加を促進したりしていることが確認された。またいくつかの地域では地方自治体も運営者と連携して重要な役割を果たしていた。

(4)まとめ

地域に対してクラウドファンディングが果たす複合的影響という観点から、多面的なデータを収集して分析を行い、地域系クラウドファンディング事業者の実態、運営の特徴を明らかにすることができた。一方で分析の結果からは、クラウドファンディングのプロジェクトが持つ一回起的な性格から継続的なネットワーク構築や活動支援には繋がりにくいという限界も改めて確認された。

クラウドファンディングは関わるアクターが多く、重層的で複雑な事象であり、これに取り組むためには経時的な変化を織り込んだ調査が不可欠である。本研究助成を受けたことでそれが可能になった。クラウドファンディングを取り巻く状況は現在も刻々と変化しており、引き続きその変化を追うことは情報技術と地域や社会との関わりを紐解く大きな手がかりとなると考えている。

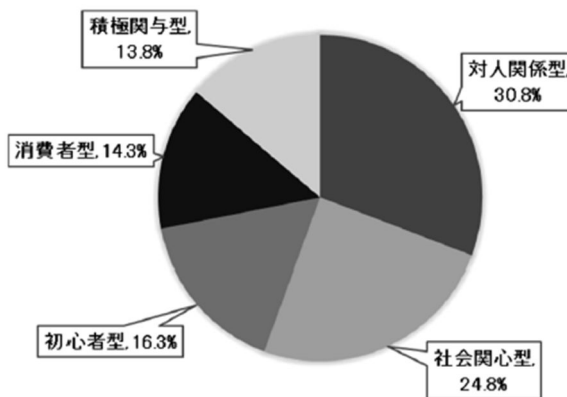


図1 クラウドファンディング支援者の類型ごとの分布

表1 類型ごとの特徴の要約

| 呼称 | 対人関係型 | 社会関心型 | 初心者型 | 消費者型 | 積極関与型 |
|---------------|--|---|---|--|--|
| 人数(割合) | 258 (30.8%) | 208 (24.8%) | 137 (16.3%) | 120 (14.3%) | 116 (13.8%) |
| 分析変数から見た特徴の要約 | 提案経験率が4割を超え、プロジェクトを知るきっかけでも情報収集でも対人コミュニケーションが重要。情報収集で「提案者の話」などが他の類型より高い。対人関係で支援する傾向。 | 社会貢献系、地域支援系テーマが多い。プロジェクトをCFサイトやマスメディアで知る傾向。情報はCFサイトで得る割合が高め。テーマに基づいて支援する傾向。 | コンテンツ系、ものづくり系テーマが多く、ネットやCFサイトなど主にオンラインで情報収集。支援は「1回のみ」が6割。提案経験率はゼロ。プロジェクトへの興味から支援する傾向。 | ものづくり系に関心が高く、7割が2回以上支援。情報を主にCFサイトから得ており、対人コミュニケーションやコミュニティに関心が薄い。ショッピングモールの利用する傾向。 | 多様なテーマに関心があり、2回以上の支援経験者が8割。提案経験率も高め。情報収集はオンライン・対人両方で活発。終了後も関心・関係が継続し、CFへのコミットメントが高い傾向。 |

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 中村雅子 | 4. 巻 29(3) |
| 2. 論文標題 クラウドファンディングの利用実態に基づく支援者の類型化 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 経営情報学会誌 | 6. 最初と最後の頁 179-198 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11497/jjasmin.29.3_179 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中村雅子 | 4. 巻 111 |
| 2. 論文標題 データで見るクラウドファンディングの「ユーザ」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 都市問題 | 6. 最初と最後の頁 10-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 中村雅子 |
| 2. 発表標題 クラウドファンディング利用の多様性：大規模ユーザ調査から見た「使いこなし」の類型化 |
| 3. 学会等名 経営情報学会 2019年度春季大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中村雅子 |
| 2. 発表標題 クラウドファンディングにおけるプロジェクト提案者の実態とコミュニティ活性化への意義 |
| 3. 学会等名 2019年 社会情報学会（SSI）学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中村雅子 |
| 2. 発表標題 大規模オンライン調査から見た日本のクラウドファンディング支援者の実態 |
| 3. 学会等名 2018年 社会情報学会 (SSI) 学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masako Nakamura |
| 2. 発表標題 Profile of the proponents and the determinants of a successful project in Japanese crowdfunding. |
| 3. 学会等名 International Symposium on Social Sciences and Management (ISSSM) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Masako Nakamura |
| 2. 発表標題 Crowdfunding system as an artifact for empowerment of local citizen activities in Japan. |
| 3. 学会等名 International Society for Cultural-historical and Activity Theory (ISCAR) (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中村雅子 |
| 2. 発表標題 人工物との出会いによる活動の変容の語りー越境としてのクラウドファンディングー |
| 3. 学会等名 日本質的心理学会 第17回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中村雅子 |
| 2. 発表標題 地域系クラウドファンディングにおける社会 - 技術的ネットワーク - 情報システムに焦点を当てた検討 - |
| 3. 学会等名 2020年 社会情報学会 (SSI) 学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| (関連サイト) crowdfunding_studies http://nakamura-lab.net/cf/ (移転前) http://local-studies.sv.yc.tcu.ac.jp/wordpress/ |
|--|

| | | |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 6. 研究組織 | | |
| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|